

開催報告

令和3年度日本表面真空学会
東北・北海道支部学術講演会

松本 祐 司*

東北大学工学研究科
〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-07

(2022年4月7日受理)

The FY 2021 Symposium of Tohoku
and Hokkaido Chapter, The Japan Society
of Vacuum and Surface Science

Yuji MATSUMOTO*

Tohoku University, Sendai, Miyagi 980-8579

(Received April 7, 2022)

令和3年度の日本表面真空学会東北・北海道支部学術講演会は、令和4年3月3日、4日の二日間の日程で、TKP ガーデンシティ仙台（宮城県仙台市）にて、ハイブリッド形式で開催されました。残念ながら、宮城県内の新型コロナ感染拡大に伴い、現地参加は極めて限定したものとせざるを得ませんでした。徹底した感染対策を講じることにより、オンライン参加も含め41名の方にご参加頂きました。部分的ではありますが、3年ぶりの対面での開催を実現することができました（Fig. 1）。

学術講演会は、藤川安仁東北・北海道支部長から開会の挨拶がなされた後、（一財）光科学イノベーションセンター理事長 高田昌樹先生から「北日本から世界へ表面界面イノベーションを拓く次世代放射光施設」と題して特別講演を頂きました。東北放射光計画が嚆矢となり始まった、現在建設中で大詰めを迎えている次世代放射光施設についてご紹介頂きました。大変わかりやすく、どんな新しいことがこれからできるようになるのか、参加したみなさんは胸躍る気持ちで講演に聴き入っている様子でした。続く2件の招待講演も放射光研究に関するものです。物質・材料研究機構の山崎裕一氏からは、「共鳴軟X線散乱によるトポロジカル磁性体の研究」と題し、メゾスコピックスケールの磁気構造体である磁気スキル



Fig. 1. (color online). A photo of the symposium.

ミオンの構造やダイナミクスを、放射光を用いて実空間で可視化する大変興味深いお話を頂きました。また、東北大学の小川修一先生には、「リアルタイム光電子分光法による表面反応キネティクスの複合解析」と題し、Si表面の酸化やグラフェン膜のバリア性評価に関する研究をご紹介頂きました。さらに、今回の招待講演には、2020年度会誌賞を受賞された岩手大学の高橋克幸先生から「パルスパワーによる気液界面プラズマの形成と環境浄化および農水分野への利用」、2021年度論文賞を受賞された北海道大学の城戸大貴先生から「Constrained Thorough Search 法による複雑な構造をもつ物質のEXAFS解析」と題し、それぞれお話し頂きました。その他、一般講演では10件の口頭発表と3件のポスター講演があり、現地・オンライン参加者を巻き込んだ活発な議論が行われ、大変盛会であったと考えております。

一方で、ニューノーマルと称されるオンライン形式ならではの、新しい試みもありました。副支部長である北大の島田先生が中心となって実施された令和3年度の市民講座では、北海道地区の意欲的な高校生のみなさんに、市販の「光触媒キット」を用いた課題研究に取り組んでもらいました。その課題発表の場として、現地とオンラインで結ぶことによって、高校生のみなさんにも今回の講演会に参加頂きました。表面・真空について興味を持ってもらう良い機会になったのではと思います。参加した高校生のみなさんの中から、将来、表面・真空に関わる研究に従事する人も現れるかもしれません。とても楽しみです。

最後に、本支部学術講演会を開催するに当たり、ご準備、ご尽力された皆様、また、ご参加頂いた皆様に感謝申し上げます。

*E-mail : y-matsumoto@tohoku.ac.jp